

特別委員会中間報告

基幹交通対策特別委員会

基幹となる交通手段の調査を目的に8名の委員で設置。今期の調査項目を主要幹線の国道9号、162号、372号、477号、山陰本線複線化、京都縦貫自動車道、北陸新幹線とし、また、市内交通網の市営バスについても調査することとした。各項目ごとに現状と課題の説明を受け、現地調査を実施した。

各事業では国道9号の上木崎地区で情報ボックス移転工事が19年度に、本町地区延長80メートルについては19年度に幅杭設置測量が実施。162号では棚バイパスが本年12月に供用開始。九鬼ヶ坂峠は調査進むも要望中。372号は天引道路が19年度完成予定、また天引南八田間の峠部分は今年度調査予定。477号の西田大藪道路は夢かなえ橋が完成し、センター付近まで本年度末に完成予定。山陰線京都園部間の複線化は1年程度の遅れが生じたが、一日も早い完成を願うとともに園部以西の複線化も強く要望中。京都縦貫道は和知丹波間で設計、買収等が実施。市営バスは来年度のダイヤ改正に向け協議中。今後も市の発展、市民の利便性向上の上からも状況把握と要望活動などの調査に取り組んでいく。

(委員長 中井 榮樹)

少子化対策特別委員会

本委員会は、幅広く少子化問題に関する調査を行うことを目的に8名の委員をもって設置された。

南丹市では、少子化対策の一環として全国的にもトップレベルのさまざまな子育て支援策が実施されている。しかし少子化に歯止めがかからない状況であり、効果、内容について調査研究を行なった。少子化の要因は、複雑であり、さまざまな要因が複合して起こっており、親子の関係を良好にし、子育ての喜びを実感でき、家族機能や家族の絆を強め、地域の絆を強めることが重要と考え、ファミリーサポートセンター事業の有効性について、長岡京市、亀岡市への行政視察を行なった。

親が、子育てはつらいものではなく楽しいものと感じ、少子化対策を進める上で、経済的支援だけではなく、人的支援を含めた幅広い子育て支援が必要と考え、ファミリーサポートセンター事業の実施に向けた検討を含め、今後の検討課題として6項目をあげた。

今後も、広い視野を持って少子化問題に関する調査に取り組む必要があると考える。

(委員長 仲村 学)

環境対策特別委員会

南丹市の環境共生のまちづくりに関する調査を目的に設置され、7回にわたり委員会を開催した。

平成18年6月9日には、環境共生のまちづくりをめざすため、調査項目を協議し、市の環境の現状について説明を求めた。平成18年7月6日には、本市の環境問題を所管する市民課から京都府が策定した「京都府環境基本計画」の概要と、市の環境問題の理念となる「南丹市環境基本計画」などの策定手順の説明を受けた。「水辺環境および水の循環の保全確保」を設定した。平成18年9月8日には、由良川水系で大野ダム、北中地区農業集落排水処理施設の2ヵ所、淀川水系で日吉の中央簡水、日吉ダムの2ヵ所、園部り溪ゴルフクラブと通天湖の2ヵ所、八木カヌーハウスの1ヵ所、計7ヵ所を調査した。平成19年3月5日には、上下水道の水質の現状を聞き、平成19年6月27日には、事業所より公共用水域に排出される水を規制している根拠法令、水質汚濁防止法の解説といる有害物質の数値基準の説明を受けた。

今後も環境問題の調査・継続の必要を委員全員が確認したところである。

(委員長 村田 憲一)

議会活性化対策特別委員会

本委員会は、平成18年第4回定例会において、地方分権に対応した真に市民の負託に応える議会となるべく、議会と議員の活性化に関する調査を目的に、9名の委員をもって設置し、今日まで委員会を7回開催した。

調査項目として、事務局体制、政務調査費、議会運営委員会、委員会制、会派制、議員報酬、議員定数などを協議することとし、あわせて「平成18年度市議会の活動に関する実態調査結果」「分権時代に対応した新たな市町村議会の活性化方策」の研修を行なった。また、本年9月には京都府総務部自治振興課参事を迎え、「地方行財政を取り巻く現状等について」研修、意見交換を行なった。

その他、政務調査費条例の検討や、議員報酬においては、市の全体的な財政の動向を見守ることとし、当分、暫定10%カットを継続することを決定した。議員は、市民の声や意見を大切にし、市政に反映させることが重要である。議会の主体性を持ちながら今後も議会、議員の活性化に取り組んでいく。

(委員長 面村 則夫)

常任委員会

活動報告

▼総務常任委員会

10月24日

綾部市において、市民バス（あやバス）の運行と過疎地対策（水源の里条例）について、行政視察を実施しました。

市民バスは、京都交通の経営破たんに伴う運行であり、京丹タクシー（株）に運行を委託し、一部区間に予約型乗合タクシーを導入し経営の効率化を図って

います。また、70歳以上の月に3千円の上の全線乗り放題の定期券発行や、全便を市立病院に乗り入れ、功を奏しています。

過疎化した限界集落対策に水源の里条例を制定し、65歳以上の高齢者が60%を超え、世帯数が20戸未満、市役所から25キロ以上離れた水源地域の自治会について、①住宅の建設・改修、空き家の有効活用を支援し定住の促進

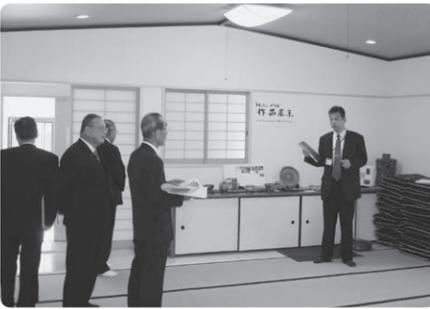
②都市住民との交流

③特産物の開発・販売、新規就農者の支援等の施策を実施し、5年間

で再生の道筋をつけようとするものです。当市にお

いても大いに参考すべき点を教示してもらいま

した。



水源の里条例についての現地調査（綾部市）

▼産業建設常任委員会

11月12日～13日

建設業の農業（茶業）参入について高知県津野町へ、彩事業・木質バイオマス利活用事業について徳島県上勝町へ行政視察を実施しました。

〔異業種の農業参入事業〕有機栽培茶により販路拡大、建設業・林業も一体となって安定的な経営をめざしている。

〔彩事業〕葉っぱを料理のつま物の材料として商品化している。



管外視察研修（高知県津野町）

〔木質バイオマス利活用事業〕

温泉施設での化石燃料を木質チップ燃料に転換、間伐材等を持ち込み、商品券と交換する地域通貨実験を実施、地球温暖化の防止と合わせて地域内の経済の活性化をしながら森林保全を進めている。

いずれも環境をキーワードに地域資源を有効に生かした事業が実施されており、人材を

発掘・育成するとともに地域資源にもう一度目を向け、有効に生かしていくことの必要性・重要性を再度認識させられました。

11月26日

〔財〕園部町農業公社の農業振興事業、美山漁業組合の概要と現状、

有害鳥獣防除施設設置事業およびクマ剥ぎ被害防止事業について管内調査を実施しまし

た。

いずれも環境をキーワードに地域資源を有効に生かした事業が実施されており、人材を

▼厚生常任委員会

10月19日・22日

平成18年度の決算審査を行いました。

11月7日～8日

南丹市の行政課題である2事例の行政視察を実施しました。

静岡県掛川市では、ゴミを資源と位置づける生涯学習の中で、徹底した資源化を進め、

リサイクル施設周辺の環境保全で、ダイオキシン類の規制値0.05

ナノグラムが守られています。

小山町では、医療費の削減に着目、町民の健康づくりに取り組

りました。

み、老人医療費の2割（2億円）が削減されています。

11月14日

南丹市の子育て支援策の事業効果と今後の課題、国民健康保険事業特別会計の不納欠

損・収納状況の現状把握と今後の課題・見直し、ダイオキシン類基準値超過の調査を行いました。

12月14日

付託された議案の審査と、環境概念について理事者の見解を質しました。

小山町では、医療費の削減に着目、町民の健康づくりに取り組



管外視察研修（静岡県掛川市）